

2 専門科目

2015年度以降入学生用

専門科目では、「経済学」分野を基本に、「経営学」・「会計学」といった分野の科目も開設されています。経済学は、資源の希少性と選択ということのポイントに、豊かな生活と公平な社会を実現するためにどのように取り組んでいけばよいかを考える学問です。

この各専門分野が飛躍的に発展し、複雑な知識体系になっていることを踏まえ、生産・流通・消費といった経済の仕組みの中で、個人や集団（経済主体）の行動を学び、しかも体系的に専門的知識が身につくように、2つのコースを設けました。

必修科目

経済学の専門科目には、コース別必修科目となる「コア科目（核となる科目）」と呼ばれる『経済学概論Ⅰ・Ⅱ』、『ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』、『マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』、『簿記論Ⅰ-a・Ⅰ-b』、『経営学総論Ⅰ・Ⅱ』、『実践経済学Ⅰ・Ⅱ』、『簿記特別演習Ⅱ』及び『フレッシュパーソンゼミ』等が指定されています。

1年次の必修科目^{※1}は、少人数クラス制による『経済学概論Ⅰ・Ⅱ』と『フレッシュパーソンゼミ』です。『経済学概論Ⅰ・Ⅱ』は、共通のシラバス^{※2}と教科書のもとで、経済に対する関心を深め、経済学の基本的な考え方を新入生に理解してもらうために設けたコア科目です。また、『フレッシュパーソンゼミ』では、指導教員に授業等に関する各種の相談や、各自の将来の進路についてのアドバイスを受けられます。この他、グローバル経営コース希望者は『簿記論Ⅰ-a・Ⅰ-b』『経営学総論Ⅰ・Ⅱ』も必修科目として開講されます。

2年次は、『プレゼミ』が必修科目となります。また、『ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』、『マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』及び『実践経済学Ⅰ・Ⅱ』がグローバル経済コースの学生にとって必修科目となり、『簿記特別演習Ⅱ』がグローバル経営コースの必修科目となります。これらの科目は経済学全体の基礎理論として位置づけられ、経済学部の専門教育に必要な最低限の基礎学力を身につけてもらうために設けたコア科目です。

3、4年次は、『専門ゼミ』が必修コア科目として設けられています。

さらに、各コースには、コース基礎科目が配置され、必修のコア科目とコース発展科目（各コース専門科目）をつなぐ基幹的役割を果たしています。コースの科目によっては、基礎科目の内容が理解できないと、発展科目を学びにくい専門科目もあります。各コース説明をよく読んで、コース選択をしてください。経済学部では、グローバル経済コース、グローバル経営コースという2つのコースを用意し、各コースで学習の目的・方向を定めています。2コースが、現代の経済学あるいはそれと関連する経済事象の解明に役立ち、みなさんの履修計画と進路・職業選択のよき道しるべになれば、と考えています。

次頁からはそれぞれ2つのコースについて、学びのスタイルを説明します。

※1 必修科目の場合、例えば『経済学概論Ⅰ』の単位を修得しないと『経済学概論Ⅱ』は履修できません。必ず再履修でⅠの単位を修得してからⅡへ進んでください。

※2 講義概要のこと。授業の概要、到達目標、授業内容、履修条件、授業外（事前・事後）の学修、評価基準・方法、教科書、参考書等が記載されている。

グローバル経済コースとは

標準的な経済学を幅広く学び、世界が一体となるグローバル時代に見合った国際的視野と感覚を身につけ、国際社会で活躍できる人材を育てるとともに、グローバル時代だからこそ、脚光を浴びている地域の諸問題を解決できる人材を育成します。

学習プラン

ヒト、モノ、カネ、情報が自由に国境を越えて移動する現代の国際社会を生き抜くために必要な知識やスキルが学べます。モノ、カネの取引や取引ルールの国際化の側面を明示的に分析する国際経済学や国際金融論、世界の各地域のもつ歴史や経済社会の固有性を学ぶ経済史科目や各国経済論、実践的な海外研修などが配置されています。また、グローバル時代だからこそ脚光を浴びている身近な地域の諸問題を解決するための知識を学ぶ科目群も配置されています。

何が身につくのか

経済のグローバル化が進む中で国際競争・協力などの諸問題に興味のある学生、グローバル時代の新しい課題や事業に関心のある学生、世界各地域の経済に関心のある学生は、このコースを通じて国際感覚と、国際ビジネスパーソンとして必須な国際経済・開発に係る政策評価の知識やスキル、語学力を身につけることができるでしょう。また、地域の課題を発見し、問題の原因を分析し、その解決に貢献できる人材としての課題探究能力を身につけることを目指しています。

進路

このコースは、一般の民間企業を中心としながらも、進路を多角的に考える学生や、グローバルな視野と総合的な政策分析・提言能力が求められる国際公務員やIT企業、専門商社、NGO、また、地域の課題に応える地方公務員や福祉、環境関連の企業へ就職を希望する学生を想定しています。

グローバル経済コースの履修モデル

1年	経済と経済学に触れる	2年	国際社会をめざす学習	3年	経済知識の徹底	4年	オールラウンドな応用力養成
	<ul style="list-style-type: none"> ●⇨コア科目 フレッシュパーソンゼミ 経済学概論 ●⇨専門基礎・発展科目 統計学入門 経済・経営数学入門 情報処理入門 日本経済論 経済学史 東洋経済史 西洋経済史 日本経済史 ●⇨インターンシップ ●⇨ボランティア活動 		<ul style="list-style-type: none"> ●⇨プレゼミ (インターンシップ等) ●⇨海外への短期留学 海外研修 ビジネス英語 ●⇨コア科目・専門科目 ミクロ経済学 マクロ経済学 実践経済学 アメリカ経済論 ヨーロッパ経済論 サービス経済論 公務員講座 ファイナンシャル・プランナー講座 		<ul style="list-style-type: none"> ●⇨専門科目・演習 専門ゼミ1 国際経済学 国際金融論 開発経済論 財政学 地域研究(浦安学) ●⇨インターンシップ ●⇨ボランティア活動 		<ul style="list-style-type: none"> ●⇨卒業研究 ●⇨専門科目・演習 専門ゼミ2 中級ミクロ経済学 中級マクロ経済学 計量経済学 経済変動論 経済政策論
	○コース担当教員による個別指導。学生の適性・希望を考慮しながら履修計画をアドバイスする。		○国際舞台で活躍したい学生を募る。実際に国際社会での体験を積み重ね、国際経済への認識を深める。		○少人数制によるテーマ別のゼミ指導。企業からの講師の招聘などによるビジネススキルの徹底。希望者には企業等での研修を設定している。		○国家公務員、ビジネス通訳等の専門職のほか、商社においての海外勤務や、海外ボランティアとして国際舞台で活躍する道もある。

注意 上記の表は、履修モデルを示したものです。卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等によく確認し、間違いのないよう必要な単位を修得してください。

グローバル経営コースとは

経済活動の中心を担う「会社」を対象として、企業間競争の時代を生き抜いていくために多様な考え方を養い、ビジネス社会で求められる（企業）経営の在り方を学ぶのがグローバル経営コースです。

学習プラン

このコースは、主に民間企業での活躍を目指す学生向けに開設されています。グローバル経営コースの基本目標は、企業の収益性、安全性、成長性、社会的責任（CSR）、経営の組織、管理、戦略、コンプライアンス（法令順守）及び税制といった、企業を取り巻く経営上の諸問題をとらえ、これに対処する立案力や提言力を備えた人材を育成することです。そのため、1年次から経営に関する包括的な知識を身につける必要があります。目標達成の第一歩として簿記論及び経営学総論が必修となっています。

経営系、会計系および税法のすべての科目に簿記の知識は有用で、さらに、経営管理、組織、戦略、財務、証券・マーケティングなどのより専門的なマネジメント技術を修得します。

何が身につくのか

ビジネスマンのコミュニケーション能力として不可欠な「三種の神器」といわれる「英語」「コンピュータ」「簿記・会計」は、決められたツールにしたがい、正しく理解していかなければ決して身につかない「知識」ないし「ツール」です。そのため、一通りの理解を得るには、それ相応の「時間」と「努力」が求められます。しかし、いったん身につければ「三つ子の魂、百まで」のたとえどおり、一生涯にわたってその知識を活用することができるでしょう。

進路

ビジネスパーソンとして企業で活躍したい学生、コンサルティング業、サービス業、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を目指す学生、国税専門官のような公務員、MBAコース、会計専門職大学院への進学を目指す学生にとっては、このコースで学んだことが大いに役立つでしょう。

グローバル経営コースの履修モデル

1年	経済と経営の違いを学ぶ	2年	企業経営とはなにか	3年	企業経営の実際	4年	企業のケース・スタディ
<ul style="list-style-type: none"> ●⇒コア科目 フレッシュパーソンゼミ 経済学概論 簿記論Ⅰ 経営学総論 ●⇒専門基礎・発展科目 簿記特別演習Ⅰ 統計学入門 経済・経営数学入門 情報処理入門 経営史 	<ul style="list-style-type: none"> ●⇒プレゼミ (インターンシップ等) ●⇒海外への短期留学 海外研修 ビジネス英語 ●⇒コア科目・専門科目 簿記特別演習Ⅱ 統計学 簿記論Ⅱ・Ⅲ 工業簿記 会計学総論 経営管理論 経営組織論 財務管理論 税法総論 ファイナンシャル・プランナー講座 会社法 	<ul style="list-style-type: none"> ●⇒専門科目・演習 専門ゼミⅠ 財務会計論 管理会計論 税務会計論 原価計算 マーケティング論 生産管理論 人的資源管理論 証券論 金融論 地域研究（浦安学） 企業法（ビジネス法） ●⇒インターンシップ ●⇒ボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●⇒卒業研究 ●⇒専門科目・演習 専門ゼミⅡ 国際会計論 国際経営学 社会関連会計 監査論 				

- 2年生以降の専門科目を学ぶための簿記・会計・経営の基礎を修得する。
- グローバル・スタンダード（世界標準）としてのビジネスコミュニケーションを学ぶ。経営の内容を理解する。
- 少人数制によるテーマ別のゼミ指導。企業の現場体験・見学を通じて実社会に触れ、専門科目の応用性を高める。希望者には、企業・会計事務所等での研修を設定している。
- ケース・スタディを研究しながら卒業論文を執筆する。同時に資格取得も目指す。

注意 上記の表は、履修モデルを示したものです。卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等によく確認し、間違いのないよう必要な単位を修得してください。

経済学部では、社会における現実と知識を結びつけて経済事象を理解できるよう、2年次から将来の目的に応じ2つのコースに分かれて学ぶこととなります。

コース選択に当たっては、各コースの概要及び教育課程表等を基に慎重に行うのはもちろんのこと、所定の時期に登録を完了しない場合、当該年度の履修は認められませんので注意してください。

コース名	狙い・進路等	関連資格等
グローバル経済コース	<p>グローバル時代のダイナミックな経済を体験し、国際視野と国際感覚を身につけます。海外ボランティアや国際公務員として国際舞台で活躍することを想定しています。また、グローバル時代だからこそ注目される身近な地域の諸問題を解決できる地域人材として活躍するための知識やスキルが身につきます。</p>	<p>経済学検定試験 公務員試験 通関士 総合旅行業務取扱管理者 秘書技能検定 ジェトロ認定貿易アドバイザー 福祉住環境コーディネーター ビジネス能力検定 等</p>
グローバル経営コース	<p>企業間競争の時代を生き抜いていくために、ビジネス社会にかかわる理論と実践を学びます。現代のソロバンである簿記・会計を習得し、ビジネスに必要な専門的マネジメント技術を身につけます。公認会計士・税理士・中小企業診断士などのスペシャリストとして独立開業したり、企業等で活躍するのに役立ちます。専門職大学院やビジネススクールへの進学も期待されます。</p>	<p>簿記検定（日商） 公認会計士 税理士 国税専門官 販売士検定 証券アナリスト ファイナンシャル・プランニング技能士 ビジネス能力検定 等</p>

2014年度以前入学生用

専門科目では、「経済学」分野を基本に、「経営学」・「会計学」といった分野の科目も開設されています。経済学は、資源の希少性と選択ということのポイントに、豊かな生活と公平な社会を実現するためにどのように取り組んでいけばよいかを考える学問です。

この各専門分野が飛躍的に発展し、複雑な知識体系になっていることを踏まえ、生産・流通・消費といった経済の仕組みの中で、個人や集団（経済主体）の行動を学び、しかも体系的に専門的知識が身につくように、3つのコースを設けました。

必修科目

経済学の専門科目には、**コース別必修科目**となる「コア科目（核となる科目）」と呼ばれる『経済学概論Ⅰ・Ⅱ』、『ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』、『マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』、『簿記原理Ⅰ・Ⅱ』、『経営学総論Ⅰ・Ⅱ』及び『フレッシュパーソンゼミ』が指定されています。

1年次の必修科目は^{※1}、少人数クラス制による『経済学概論Ⅰ・Ⅱ』と『フレッシュパーソンゼミ』です。『経済学概論Ⅰ・Ⅱ』は、共通のシラバス^{※2}と教科書のもとで、経済に対する関心を深め、経済学の基本的な考え方を新入生に理解してもらうために設けたコア科目です。また、『フレッシュパーソンゼミ』では、指導教員に授業等に関する各種の相談や、各自の将来の進路についてのアドバイスを受けられます。この他、経営コース希望者は『簿記原理Ⅰ・Ⅱ』も必修科目として開講されます。

2年次は、『ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』と『マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』がグローバル経済コースと生活・環境コースの学生にとって必修科目（経営コースの学生は選択必修科目）となります。これらの科目は経済学全体の基礎理論として位置づけられ、経済学部専門教育に必要な最低限の基礎学力を身につけてもらうために設けたコア科目です。また、経営コースでは、『経営学総論Ⅰ・Ⅱ』が必修コア科目として設けられています。

さらに、各コースには、コース基礎科目が配置され、必修のコア科目とコース発展科目をつなぐ基幹的役割を果たしています。コースの科目によっては、基礎科目の内容が理解できないと、発展科目を学ぶにくい専門科目もあります。各コース説明をよく読んで、コース選択をしてください。現在、経済学部では、グローバル経済コース、生活・環境コース、経営コースという3つのコースを用意し、各コースで学習の目的・方向を定めています。3コースが、現代の経済学あるいはそれと関連する経済事象の解明に役立ち、みなさんの履修計画と進路・職業選択のよき道しるべになれば、と考えています。

次頁からはそれぞれ3つのコースについて、学びのスタイルを説明します。

※1 必修科目の場合、例えば『ミクロ経済学Ⅰ』の単位を修得しないと『ミクロ経済学Ⅱ』は履修できません。必ず再履修でⅠの単位を修得してからⅡへ進んでください。

※2 講義概要のこと。授業の概要、到達目標、授業内容、履修条件、授業外（事前・事後）の学修、評価基準・方法、教科書、参考書等が記載されている。

グローバル経済コースとは

標準的な経済学を幅広く学び、「社会を生き抜く基礎能力」を身につけるとともに、世界が一体となるグローバル時代に見合ったダイナミックな国際的視野と国際感覚を身につけ、国際社会で活躍できる人材を育てます。

学習プラン

ヒト、モノ、カネ、情報が自由に国境を越えて移動する現代の国際社会を生き抜くために必要な知識が学べます。モノ、カネの取引や取引ルールの国際化の側面を明示的に分析する国際経済学と国際経営学、世界の各地域のもつ経済社会の固有性・地域性を個別に学ぶ各国経済論と開発経済論などがあります。さらに、より実践的な科目として海外研修を用意しています。

何が身につくのか

経済のグローバル化（地球規模化）が進む中で国際競争・協力などの諸問題に興味のある学生、グローバル時代の新しい課題や事業に関心のある学生、世界各地の経済に関心のある学生は、このコースを通じて国際感覚を身につけることができるでしょう。国際経済社会での日本の現在と未来の課題を考え、国際ビジネスマンに必要な国際経済・開発の現状分析と政策評価に関するさまざまな知識とスキル、語学力を身につけることを目指しています。

進路

このコースは、一般の民間企業を中心としながらも、進路を多角的に考える学生や、グローバルな視野と総合的な政策分析・提言能力が求められる国際公務員やインターネットビジネスの分野、専門商社、NGO / NPOその他の国際機関への就職を希望する学生を想定しています。

グローバル経済コースの履修モデル

1年	経済と経済学に触れる	2年	国際社会をめざす学習	3年	経済知識の徹底	4年	オールラウンドな応用力養成
	<ul style="list-style-type: none"> ●⇒コア科目 フレッシュパーソンゼミ 経済学概論 ●⇒専門基礎・発展科目 日本経済論 経済学史 東洋経済史 西洋経済史 情報処理検定講座 		<ul style="list-style-type: none"> ●⇒海外への短期留学 海外研修 ●⇒コア科目・専門科目 ミクロ経済学 マクロ経済学 人口経済学 アメリカ経済論 ヨーロッパ経済論 サービス経済論 英書講読 (経済学系) 公務員講座 ファイナンシャル・プランナー講座 		<ul style="list-style-type: none"> ●⇒専門科目・演習 国際経済学 国際経営学 国際金融論 開発経済論 財政学 金融論 産業組織論 経済学演習1 ●⇒インターンシップ ●⇒ボランティア活動 		<ul style="list-style-type: none"> ●⇒卒業研究 ●⇒専門科目・演習 経済学演習2 上級ミクロ経済学 上級マクロ経済学 計量経済学 経済変動論 経済政策論 法と経済学

○コース担当教員による個別指導。学生の適性・希望を考慮しながら履修計画をアドバイスする。

○国際舞台で活躍したい学生を募る。実際に国際社会での体験を積み重ね、国際経済への認識を深める。

○少人数制によるテーマ別のゼミ指導。企業からの講師の招聘などによるビジネススキルの徹底。希望者には、企業等での研修を設定している。

○国家公務員、ビジネス通訳等の専門職のほか、商社においての海外勤務や、海外ボランティアとして国際舞台で活躍する道もある。

注意 上記の表は、履修モデルを示したものです。卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等によく確認し、間違いのないよう必要な単位を修得してください。

生活・環境コースとは

身近な地域の暮らしと経済、環境、福祉について、(暮らし、働き、学ぶ) 生活者の視点から考えるというのが生活・環境コースです。

学習プラン

この分野の科目群では、現代社会がかかえる身近な経済・社会問題を取り上げ、理論と実証の両面から分析を行います。産業組織とデジタル情報通信革命、流通組織と流通革命、雇用と失業、社会保障と医療・年金・介護、少子高齢化と人口、地球環境と食料・漁業、大量生産と廃棄物処理、地方財政、交通システム、サービス経済化などの諸問題を経済学的に深く分析し、それらを生活者や行政、企業の視点からどう解決したらよいか、その政策のあり方を探るなどがその例です。

何が身につくのか

地方分権が叫ばれ、地域の自立が求められる今日、生活者自らが市民として地域の発展を考えていく必要性がこれまでになく高まっています。このコースでは生活者として身近な地域の諸問題を発見し、その原因を掘り下げて分析できる探究能力と、問題解決のための政策立案能力を身につけることを目指しています。

進路

地方公務員や警察・消防といった地域のために働く公共関係の仕事をはじめ、これからの生活者のニーズの高まりが予想される福祉、介護、環境、医薬品、住宅などの分野や、新たな成長が期待される情報通信、インターネット・コンテンツ事業(アニメ、ゲーム、音楽など)、金融、保険、専門流通、物流業などの分野の一般企業、ベンチャー企業、NPO(非営利組織)、NGO(非政府組織)などの中間組織で幅広く活躍することを希望する学生は、このコースで学んだ知識と課題探究精神・能力が大いに役立つことでしょう。

生活・環境コースの履修モデル

1年	自分が将来やりたいことをみつける	2年	社会や人口の構造と福祉のしくみなどを学ぶ	3年	問題発見・解決のための力をつける	4年	身近な地域などで活躍する人材となる
<ul style="list-style-type: none"> ●⇨コア科目 フレッシュパーソンゼミ 経済学概論 ●⇨専門基礎・発展科目 日本経済論 簿記原理 憲法 情報処理検定講座 	<ul style="list-style-type: none"> ●⇨コア科目・専門科目 ミクロ経済学 マクロ経済学 環境経済論 人口経済学 社会保障論 食料環境経済論 民法 税法総論 サービス経済論 公務員講座 ファイナンシャル・プランナー講座 	<ul style="list-style-type: none"> ●⇨専門科目・演習 財政学 金融論 労働経済論 生活経済学 産業組織論 社会関連会計 経済学演習1 ●⇨インターンシップ ●⇨ボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●⇨卒業研究 ●⇨専門科目・演習 経済学演習2 交通経済論 地方財政論 公共経済学 				

○コース担当教員による個別指導。学生が将来何をやりたいのかを発見させると同時に、そのための学習課題をアドバイスする。

○経済活動、環境問題や福祉、家計、食料など生活にかかわる諸問題をトータルに学び、社会を動かすメカニズムを理解するための基礎知識を身につける。

○少人数制によるテーマ別のゼミ指導。フィールドワークなどで身近な環境福祉問題を実際に見聞きし、事実を踏まえてその解決策を探る。希望者には、市役所・福祉施設等での研修を設定している。

○4年間で培った問題発見・解決のノウハウを、公共関係の仕事(公務員、消防、警察、NPO)や福祉分野の企業で活かす。

注意 上記の表は、履修モデルを示したものです。卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等によく確認し、間違いのないよう必要な単位を修得してください。

経営コースとは

経済活動の中心を担う「会社」を対象として、企業間競争の時代を生き抜いていくために多様な考え方を養い、ビジネス社会で求められる（企業）経営の在り方を学ぶのが経営コースです。

学習プラン

このコースは、主に民間企業での活躍を目指す学生向けに開設されています。経営コースの基本目標は、企業の収益性、安全性、成長性、社会的責任（CSR）、経営の組織、管理、戦略、コンプライアンス（法令順守）及び税制といった、企業を取り巻く経営上の諸問題をとらえ、これに対処する立案力や提言力を備えた人材を育成することです。そのため、1年次から経営に関する包括的な知識を身につける必要があります。目標達成の第一歩として簿記原理が必修となっています。

経営系、会計系および税法のすべての科目に簿記の知識は有用で、さらに、経営管理、組織、戦略、財務、証券・マーケティングなどのより専門的なマネジメント技術を修得します。

何が身につくのか

ビジネスマンのコミュニケーション能力として不可欠な「三種の神器」といわれる「英語」「コンピュータ」「簿記・会計」は、決められたツールにしたがい、正しく理解していかなければ決して身につかない「知識」ないし「ツール」です。そのため、一通りの理解を得るには、それ相応の「時間」と「努力」が求められます。しかし、いったん身につければ「三つ子の魂、百まで」のたとえどおり、一生涯にわたってその知識を活用することができるでしょう。

進路

ビジネスパーソンとして企業で活躍したい学生、コンサルティング業、サービス業、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を目指す学生、国税専門官のような公務員、MBAコース、会計専門職大学院への進学を目指す学生にとっては、このコースで学んだことが大いに役立つでしょう。

経営コースの履修モデル

1年	経済と経営の違いを学ぶ	2年	企業経営とはなにか	3年	企業経営の実際	4年	企業のケース・スタディ
	<ul style="list-style-type: none"> ●⇒コア科目 フレッシュパーソンゼミ 経済学概論 簿記原理 ●⇒専門基礎・発展科目 経営史 日本経済論 経済統計論 民法 情報処理検定講座 		<ul style="list-style-type: none"> ●⇒ビジネス英語の修得 英書講読 ●⇒コア科目・専門科目 経営学総論 応用簿記 会计学総論 経営管理論 税法総論 情報処理 ファイナンシャル・プランナー講座 会社法 		<ul style="list-style-type: none"> ●⇒専門科目・演習 財務会計論 監査論 税務会計論 財務管理論 マーケティング論 経営組織論 証券論 経済学演習1 金融論 税法総論 企業法（ビジネス法） ●⇒インターンシップ 		<ul style="list-style-type: none"> ●⇒卒業研究 ●⇒専門科目・演習 経済学演習2 国際会計論 国際経営学 社会関連会計

○2年生以降の専門科目を学ぶための簿記・会計・経営の基礎を修得する。

○グローバル・スタンダード（世界標準）としてのビジネス英語を学ぶ。
経営の内容を理解する。

○少数数制によるテーマ別のゼミ指導。企業の現場体験・見学を通じて実社会に触れ、専門科目の応用性を高める。希望者には、企業・会計事務所等での研修を設定している。

○ケース・スタディを研究しながら卒業論文を執筆する。
同時に資格取得も目指す。

注意 上記の表は、履修モデルを示したものです。卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等によく確認し、間違いのないよう必要な単位を修得してください。

経済学部では、社会における現実と知識を結びつけて経済事象を理解できるよう、2年次から将来の目的に応じて3つのコースに分かれて学ぶこととなります。

2年次からのコース選択に当たっては、各コースの概要及び教育課程表等を基に慎重に行うのはもちろんのこと、所定の時期に登録を完了しない場合、当該年度の履修は認められませんので注意してください。

コース名	狙い・進路等	関連資格等
グローバル経済コース	新しいグローバル時代のダイナミックな経済を体験し、国際視野と国際感覚を身につけます。海外ボランティアとして国際舞台で活躍することや、国際公務員として外国に出向したり、海外で活躍することを希望する人に大いに役立ちます。国際公共政策や財政を担う公務員、あるいは大学院進学も期待されます。	経済学検定試験 公務員試験 通関士 総合旅行業務取扱管理者 秘書技能検定 ジェットロ認定貿易アドバイザー CBS（国際秘書）検定 ビジネス能力検定 等
生活・環境コース	身近な地域の暮らしと経済、環境、福祉について、(暮らし、働き、学ぶ)生活者の視点からの知識・考え方が身につきます。地方公務員や警察・消防といった地域のために働く公共関係の仕事をはじめ、これからの生活者のニーズの高まりが期待される福祉、介護、環境、住宅などの分野での活躍が期待されます。大学院への進学も期待されます。	公務員試験 (社会福祉主事任用資格) ファイナンシャル・プランニング技能士 社会保険労務士 行政書士 福祉住環境コーディネーター ビジネス能力検定 秘書技能検定 等
経営コース	企業間競争の時代を生き抜いていくために、ビジネス社会にかかわる理論と実践を学びます。現代のソロバンである簿記・会計を習得し、ビジネスに必要な専門的マネジメント技術を身につけます。公認会計士・税理士・中小企業診断士などのスペシャリストとして独立開業したり、企業等で活躍するのに役立ちます。専門職大学院やビジネススクールへの進学も期待されます。	簿記検定（日商） 公認会計士 税理士 国税専門官 販売士検定 証券アナリスト ファイナンシャル・プランニング技能士 ビジネス能力検定 等

[1] コース登録

2015年度以降入学生

各コースには、開講される授業科目の性質上、定員が定められています。
コースの登録については、フレッシュパーソンゼミの授業の中で行います。

定員

コース名	定員		備考
	2017年度入学生	2015・2016年度入学生	
グローバル経済コース	200名	250名	定員の数は目安とし、3年次編入学生を除きます。
グローバル経営コース	100名	150名	
計	300名	400名	

2010～2014年度入学生

各コースには、開講される授業科目の性質上、定員が定められています。

定員

コース名	定員	備考
グローバル経済コース	140名	定員は目安とし、3年次編入学生を除きます。
生活・環境コース	140名	
経営コース	120名	
計	400名	

[2] コース変更

ア 原則として、コース登録後の変更は認められません。ただし、2015年度以降入学生については1年次のフレッシュパーソンゼミの授業の中、2010～2014年度入学生については3年次及び4年次の所定の時期に願い出て許可を得た場合に限り、変更することができます。詳細については、別途掲示等で指示します。

イ 変更は、変更の事由、当該コースの定員、成績及び単位の修得状況等を勘案し、教務委員及び学科主任がやむを得ないと判断した場合に許可されます。

3 卒業論文

『経済学演習2（卒業論文を含む。）』（2015年度以降入学生は『専門ゼミ2（卒業論文を含む。）』）における卒業論文とは、授業担当教員から指導を受け、学部の教科に関する修業を集約・発展させて論文を作成することをいいます。

論文の執筆・提出要領等は、授業担当教員から直接の指導があります。